

2023年度事業報告

(2023年4月1日～2024年3月31日)

1. 事業活動報告

1. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

- ・地域から寄せられる寄付品を有効に活用し、資源の地域内循環に努めました。

寄付件数 3,079件 販売衣類 15,075 枚 雑貨 30,489点
総売上 14,036,730円 (フェアトレード品を除く)

2. 主にアジア地域の人々の生活の向上と自立に寄与する事業

- ・支援については、支援NGOから情報を収集し、その支援プログラムを理事会で討議し、支援を行いました。また、その情報を地域に発信し寄付文化を拡げました。
- ・新年早々に発生した能登半島地震は、日本中に大きな衝撃を与えました。すぐに募金活動を開始し、地域の方々からたくさんの励ましの募金がありました。

2. 事業活動内容

1. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

1) WEショップ2店舗と「スペースWEWE」の運営

- ・6月から猛暑が続き、ショップ運営に多大な影響を及ぼしましたが、来客が少ない時等は店内の整理や品物の入れ替えを行い変化のあるショップ作りに努めました。
- ・ほぼ毎月、時事に合った企画を計画し、集客、売り上げに努めました。
- ・「寄付品のお願い」チラシを有効に活用し、地域資源の有効活用を進めました。
- ・「チャリティショップWEショップ」を再認識し、寄付のお願いや、フェアトレード品の紹介に努めました。
- ・昨年11月「きもの市」今年3月「リメイクフェア」を外会場で開催し、日本の文化を伝えるとともに、「新たな価値」の作品であるリメイク品を販売し資源の有効活用を進めました。
- ・南台店は、ご家族の病気やスタッフの突然の入院があり、ショップ運営やシフト等が厳しくなっています。新スタッフ(6月に参加)の研修を進め、業務の役割分担を行いました。更にボランティアに協力を呼びかけてショップ運営を改善していきます。

【スペースWEWE】

- ・現在は着物、リメイク品類の販売の場所となっています。本来の「スペースWEWE」の目的は講座の開催、講習会等集まる場です。今後の在り方については検討課題です。
- ・リメイク事業については、担当者不在、リメイク制作の人材不足も課題です。

【若松店】

売上げ目標	8,000,000円 (フェアトレード含む)
実績	9,382,365円
客数	10,074人
延べボランティア数	1,322人

・年間計画イベントはすべて開催することができました。4月「春夏バッグ・アクセサリー市」9月「秋冬バッグ・アクセサリー市」10月「リメイク市」11月「アジア&中東フェアトレード展」また5・6月企画として「布ぞうり市」6月にはミニ企画として「レトロ・アンティークおもしろ市」を開催したところ、イベントに興味を持った初来店の男性客にチャリティショップをアピールすることができました。

・フェアトレードコーナーをレジ近くに設置し、お客さまに声掛けをして知っていただくことを目標にしました。11月には南台店と「アジア・中東フェアトレード展」を同時開催しました。アフガニスタンのドライナッツ類を特別に仕入れて「もう一つの支援」の形、フェアトレードを語りながら購入に結びました。

・ショップ運営に大切なボランティアの力を十分に活かせるように開店前ミニミーティング及び後半は、個人的ミニミーティングを行いました。情報量が多くなってきた為、2月よりペーパーで伝えることにより、ボランティア間で情報格差が出ないように注意しました。

・今年度の大きな目標「チャリティショップ若松店」を知っていただくため、ショップ内外に見やすくタイムリーな支援情報を掲示しました。ブログを見て来店する客も増え、募金にもつながりました。

寄付文化を拓げるための募金は、より身近な募金内容に共感したボランティアやお客様から参加が増えました。

・リメイク文化を広げるために寄付品を再利用したリメイク品販売は、WEのリユース・リサイクル活動のひとつです。今年度は、リメイク関係のイベントを多く開催し、地域の方々に楽しんでいただくとともに売り上げを大きく伸ばしました。今後は、地域に必要とされるリメイク品の可能性を模索しながら、リメイクボランティアへ参加の声掛けを続けます。

数年に渡るリメイク担当スタッフ不在は、活動に大きな影響が出ている為解決のために対応策が必要です。

・ショップ活動の中心となるボランティアの高齢化がすすみ新規ボランティアが増えないことが課題となっています。

【南台店】

売上げ目標	5,800,000円
実績	5,496,075円
客数	5,981人
延べボランティア数	744人

・今年度は、6月から新スタッフ1名が加わりましたが、8月にスタッフ1名が病気の為休まれ、現在2

名で運営しています。

それぞれ役割を分担し、業務をスムーズに行える様努めました。

ただ、スタッフ間でショップ運営についての話し合いが、十分に出来ませんでした。

- ・今年度も、南台店2大恒例企画の6月「アクセサリー市」、10月「バッグ市」を開催しました。開催を心待ちにしていたお客様が多数来店され、楽しんで頂く事が出来、目標を大幅にクリアし、売上を伸ばす事が出来ました。

「夏の衣類半額セール」は、前年度は開催時期が遅かった為、今年は開催時期を早めました。また、セール以外にも、ワゴンに「お買得コーナー」を設けて、通行の人たちにも目を向けてもらえる様、集客及び、売上向上にも努めました。店内にも常に小さなお買得コーナーを設ける等の努力をしましたが、なかなか売上には結びつきませんでした。

- ・WE2 1相模原の活動報告及び支援活動を、外の掲示板、窓、店内支援コーナー、A 看板等に掲示し、「チャリティショップ南台店」の広報に努めました。

ショップのブログは、年間計画企画、その他行事、寄付品の紹介等、楽しいブログでの広報に努めました。

- ・WE ショップ南台店を知ってもらう為、商店街にて WE2 1相模原主催の「きもの市」を開催しました。開催後は「きもの市」からの初めてのお客様も来店され、認知を高める成果がありました。

・今年の「フェアトレードフェア」は、11月に若松店と同時期開催とし、常設品のフェアトレード品以外に、前年度好評だったアフガニスタンのドライフルーツも販売した為、フェアトレードの意義や支援先の情報をお客様に伝える事が出来ました。

- ・ボランティアが積極的に、店内のレイアウトや商品の見せ方等のアイデアを出し合い、ショップ運営に生かしました。

新ボランティア獲得の為、お客様への声掛け等の結果、今年度はボランティアが2名増えました。

ただ、ボランティアの高齢化の為、病気や怪我が年々多くなってきました。様子を見ながら対処していきたいと思います。

年2回予定のボランティアミーティングは、今年は1回しか実施出来ませんでした。ボランティア全員の参加は難しい為、今後は2回に分けての開催も検討したいと思います。

情報の共有については、ボランティア全員のグループラインへ、常に情報発信をしました。

2) リユース・リサイクル事業

日時	通年
場所	WEショップ若松店 WEショップ南台店
従事者	理事8名 ショップボランティア 38名
受益者	主に相模原市南区の市民及びショップ利用者
支出額	12,397,084円

- ・WE2 1やWE2 1ジャパングループと連携して、この事業を推進しました。

2. 主にアジア地域の人々の生活と自立に寄与する事業 (支援一覧参照)

2023年度の支援総額は11プログラム 1,341,110円となりました。

日常生活を営むことが困難になる「武力衝突」「自然災害」等への支援が5プログラムとなりました。緊急支援をはじめとした支援に、多くの方々から「寄付・募金」507,553円が寄せられました。

24年運営を続けてきたWE21相模原の活動が、地域の信頼を得て地域で「何かしなければ・・・」の窓口になってきたことを実感できました。

また、ショップ以外で行ったイベント「きもの市」「リメイクフェア」の収益からも支援を行い、チャリティショップとしての活動を地域で行いました。

国内及び海外支援

日時 通年

場所 支援プログラム実施の国・地域

従事者 理事8名

受益者 支援プログラム実施の人々

支出額 2,079,103円

1) 国内への支援

4プログラム477,700円

・能登半島地震への緊急支援

1月1日に起こった能登半島地震へどのような支援が行えるのか、WE21相模原が行う支援はどのような支援なのか模索しました。

そのなかで震災によってストレスや不安を抱えている子どもたちの支援を行うNPO法人「カタリバ みんなの子ども部屋」へ緊急支援を行いました。「カタリバ」は募金額が目標に達したため2024年2月21日に募金を締め切りました。そのため店頭募金・リメイクフェアの支援についても「カタリバ」を予定していましたが、同じような活動を行っている「セーブ・ザ・チルドレン」に支援することとしました。

子どもへの支援は、自宅の被害等で動かなければならない親御さんへの支援に繋がります。物資以外にもこのような応援の仕方があることを地域の人に発信しました。

・「3.11をわすれないキャンペーン」

東日本大震災によって起こった「原発事故」の被ばくによる健康被害の不安をもち続けている人の検診「甲状腺検診プロジェクト」を今年度も支援しました。

・また、検診のためのエコー器の故障に伴う緊急支援にも協力しました。

2) 海外支援活動をしている団体への助成金等の支援

7プログラム 863,410円

・パレスチナ ガザ

10月7日にパレスチナ ハマスがイスラエルを襲撃したことから、ガザに対するイスラエルの激しい攻撃が行われ未だ停戦に至っていません。

「貧困撲滅のための国際デー」の売上を一部「緊急支援」とすることを地域の方に告知しました。

2023年度の「ガザの子どもたちへの栄養改善事業」9月まで実施されていた部分への支援と

し、状況によっては緊急支援に使うことを合意しました。

多くの方から寄せられた、寄付・募金は緊急支援の一部としました。

毎年支援を行ってきた「ガザの子どもたちへの栄養改善事業」は現地 NGO メンバーの無事は確認されていますが、今後の継続が見通せない状況になっています。

イスラエルの攻撃は「ガザ」に留まらず、オリーブオイル生産者が住む「ヨルダン川西岸地区」にも及んでいます。NPO法人APLAが行う緊急支援に参加しました。

・アフガニスタン

女性の権利制限が次々となされるアフガニスタン。女性教育はまず、中等教育が、そして高等教育も無期限停止となってしまいました。それでも学びたいという女性たちが通う「学校」があります。「地下学校」「秘密学校」「隠れ学校」などともいわれています。

クリスマスキャンペーン・きもの市の売上の一部・寄付 募金を、厳しい状況にあるアフガニスタンの女性たちの「学びへの思いと努力」に支援しました。

・その他

「アフガニスタンに絵本を届ける運動」は、自分自身が支援の担い手になる体験をしてもらいながらアフガニスタンの現状を知ってもらう、ワークショップです。これからも様々な世代に体験してもらえる工夫をしていきたいと思えます。

「チョコ募金」を通して人から人にこのチョコレートが渡り、メッセージが伝わり新しい人が参加してくれたらと期待しています。

それぞれの暮しを工夫し、知恵を働かせ自分達らしい生活を築く「自立のための支援」はなかなか遠い道のりです。戦禍や自然災害に負けず、日常の営みを取り戻すことを応援し続けたいと思えます。

3) フェアトレード品の販売による支援

日時	通年
場所	相模原市南区及び近隣地域及びフェアトレード品生産地
従事者	理事8名、ショップボランティア 38名
受益者	フェアトレード品生産者及び生産地域の人々
支出額	654,413円

・今年度も、仕入れや販売を計画的に行い取り組みました。

・2ショップで「フェアトレード月間」を企画し、支援先のフェアトレード品や、アフガニスタンの女性たちの働き場につながるフェアトレード品「ミックスマツ」等を販売し、お金だけではない「もうひとつの支援」を広めました。

＜2023年度WE21ジャパン相模原支援一覧＞

()内 寄付及び募金

支援国・地域	支援プログラム名	実施団体	金額	備考
トルコ・シリア	2月6日 トルコ・シリア地震	(特非)日本国際ボランティアセンター	61,300円 (26,300円)	支援が届きにくい「シリア」への支援を行った
アフガニスタン	絵本を届ける運動	(公財)シャンティ国際ボランティア会	25,000円 (5,000円)	絵本づくりワークショップ 6/23 6/27
パレスチナ ガザ	子どもたちの 栄養改善事業	(特非)日本国際ボランティアセンター	100,000円	貧困撲滅のための国際デー 10月17日
パレスチナ ガザ	イスラエルとの戦禍	(特非)日本国際ボランティアセンター	130,000円 (84,754円)	緊急支援
イラン シリア 日本	イラン小児がん医療 シリア・イラン難民支援 福島の子どもたちを放射能から守る	(特非)JIMNET	120,000円 (115,115円)	チョコ募金
アフガニスタン	「女性たちの学校」	一般社団法人 平和村ユナイテッド	327,110円 (74,498円)	クリスマスキャンペーン きもの市
パレスチナ ヨルダン川 西岸地区	ヨルダン川西岸地区 の人道・復興支援	(特非)APLA	100,000円	オリーブオイル生産者が暮らす地域への緊急支援
日本	能登半島地震 「みんなの子ども部屋」	(特非)カタリバ	100,000円	緊急支援
日本	能登半島地震	(公益社団法人) セーブ・ザ・チルドレン	150,000円 (132,008円)	緊急支援 店頭募金 リメイクフェア
日本	甲状腺検診 超音波エコー機器購入	(特非)いわき放射能 市民測定室たらちね	50,000円 (38,306円)	緊急支援
日本	甲状腺検診 プロジェクト	(特非)いわき放射能 市民測定室たらちね	177,700円 (31,572円)	3.11をわすれないキャンペーン 3月4日～11日
合計			1,341,110円 (507,553円)	

3. 地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業

日時	通年	場所	相模原市南区及び近隣地域
従事者	理事8名	受益者	相模原市南区及び近隣地域の市民
支出額	34,370円		

0

1) WE 講座の開催

数年ぶりに参加者が一堂に集まったWE講座を開催することが出来ました。

どの講座もボランティアの方々が積極的に参加して、報告されたプログラム内容を知って、その後ショップで適切に伝えて下さったことは支援に繋がる大きな力となりました。

今年度は支援内容の報告ではなく、これから行われるキャンペーン等で、何を支援するのかを知ってもらうため事前に講座を実施しました。

- ・「貧困撲滅のための国際デー ガザ」

講座の翌日からパレスチナ・イスラエルによる戦いが始まるという、あまりの出来事に言葉もありませんでした。

- ・「クリスマスキャンペーン アフガニスタン」

この講座は実際にプログラムを実施しているザイナブ氏がZOOMで参加し、教育にたいする想いを話してくれました。このようにほとんどの時間を現地から伝える講座は初めてで大変意義深いものになりました。

講座名	開催日	講師	参加人数	備考
アフガニスタンに 絵本を届ける運動	6/23 6/27	高岡 まさみ	5名 5名	絵本づくり ワークショップ
トルコ・シリア地 震 支援報告	7/13	並木麻衣氏 日本国際ボランティア センター	21名	
パレスチナ ガザ 「子どもたちの 栄養改善事業」	10/6	小林麗子氏 日本国際ボランティア センター	19名	開催日翌日 イスラエルとの戦禍 が始まる
アフガニスタン 「女性たちの学 校」	12/1	小野山亮氏 平和村ユナイテッド ザイナブ氏 アフガニスタンより	28名	ZOOMでアフガニスタ ンより参加

2024年2月26日「パレスチナ ガザ」報告会

(ZOOMによる報告 参加者 地域NPO 相模原3名)

- ・直接状況を伝えたいと、実施団体の日本国際ボランティアセンター現地スタッフが帰国を模索しましたが、今回の衝突で再入国が厳しい状況にあるため、WE21グループでZOOMによる開催とな

りました。

JVCは、「医療物資購入のための支援」「粉ミルク支援」の準備をしているが、情勢の悪化と通信状況の困難のなかでこれらの支援が実現するための模索が続けられているとの報告がありました。

4. この法人事業の広報普及を図る活動

日時	通年	場所	相模原市南区及び近隣地域
従事者	理事8名	受益者	相模原市南区及び近隣地域の市民
支出額	371,480円		

- ・情報紙WEWEを3回発行しました。

「チャリティショップ」としての活動を伝えるため、「キャンペーン」の告知や支援の内容を中心として地域に発信しました。

	内 容	発行枚数
84号 初夏号	WE21 相模原紹介 ワークショップ告知(アフガニスタンの子どもたちに絵本を) 2022年度支援先紹介	4000部
85号 秋号	貧困撲滅国際デー キャンペーン 「パレスチナ ガザ」 WE講座告知 「きもの市」告知	5000部
86号 冬号	「3.11をわすれない」キャンペーン 「能登半島地震」支援 測定器の緊急支援報告(NPO法人たらちね) アフガニスタン「女性たちの学校」支援報告(平和村ユナイテッド)	4500部

- ・各キャンペーンや緊急支援等にはポスターを作成、ショップに掲示して情報を発信しました。
- ・「きもの市」「リメイクフェア」ではそれぞれ5,000枚・6,000枚と積極的に地域へのチラシ配布を行いました。
- ・支援を行った内容は支援別にポスターを作成し、通行する人々にも見えるよう掲示して、支援内容を発信するとともに「リサイクルショップ」との差別化を図りました。
- ・W.C.「ほっとリンク」に依頼してホームページを作成しました。

既存のホームページはプロが作成したものではないためにレイアウトなどに支障が出てきていました。外部に依頼することで、楽に更新ができるようなシステムを構築してもらい、もし不都合が出た場合は更新を依頼することができるようになりました。

5. その他定款第3条の目的達成に必要な事業

1) 法人としての確実な運営

日時： 通年
場所： 相模原市南区及び近隣地域
従事者： 理事8名
受益者： 相模原市南区及び近隣地域の市民
支出額： 1,214,938円

- ・役割分担、分配金等をみんなで話し合い決定し、運営に責任を持つために「ワーカーズ・コレクティブ」方式で組織運営を行いました。

2) WE21ジャパンとの連携

- ・WE21との双方の関係性を明確にして、共に発展していけるよう「WE21ジャパンの目的を達成するための合意」に基づき連携しました。
- ・WE21の事業の健全化と、WE21ジャパン地域との発展的組織づくりのために、WE21の「組織改革案」について、WE21相模原の意見書を提出しました。
- ・WE21主催の各種会議や学習会等に参加し、情報の共有、意見交換をしました。
- ・WE21主催「着物&リメイクフェア」に出店参加しリメイク文化を広めました。また、地域のリメイクメンバーとの交流やリメイク作品が参考になる良い機会となっています。
- ・WE21主催の「WEバザール」と同じ会場で「リメイクフェア」を開催。チラシ配布(4000枚)等で協力しました。
- ・販売できなかった衣類、陶器、ガラスの一部はWE21と連携するリサイクル企業に届けリサイクルに努めました。

衣類のファイバー 696袋 約 4,872Kg

- ・羽毛布団、ダウンジャケット等を回収し、再生企業に届けリサイクルに努めました。

3) WE21ジャパン・グループとの連携

- ・「WE21ジャパン・グループ会議」に参加し情報共有、意見交換等連携しました。
- ・「県央グループ会議」は開催できませんでした。
- ・「アフガニスタン連絡会」は日本国際ボランティアセンターのプログラムが終了したことにより解散しました。

4) 政策提言活動

- ・「コミュニティオペティマム福祉マネジメントユニット 相模原」(以下ユニット)の参加団体として、子育て中も、年を取っても、障害があっても、安心して暮らせる地域づくりを目指して、今年も市民政策提案活動を行ないました。

2023年度市民政策提案

1. 市立小学校における障がい児の受け入れ体制の充実について
 2. 相模原市子育て世帯訪問支援事業の充実
- を、相模原市長に提出しました。

5) 他団体、行政との連携

- ・W.Co 連合会とW.Co 協会の新しい組織への変更に伴い、情報を共有しました。
- ・「さがみはらSDGsパートナー」として市が主催する「SDGsスタンプラリー」のスタンプポイントとして協力しました。
- ・相模原市のコミュニティ通貨「すもー」は地域の店舗と地域の人と人がつながっていくプロジェクトです。この趣旨に賛同して取り組みに参加しました。
- ・さがみはら市民活動サポートセンター主催「ボランティアチャレンジスクール」で、高1男子を受け入れ、WE21相模原の活動を体験してもらいました。また「利用者懇談会」に参加し、各団体の課題となっている高齢化、団体の存続等意見交換しました。
- ・連携する「青い鳥」の布ぞうりをWEショップで期間限定販売し、リユース・リサイクルの大切さを伝えました。また「青い鳥」からは常時寄付品を提供して頂き、WE21相模原は布ぞうり用の布を提供するなど連携を深めています。
- ・「座間就労準備支援はたらっく・ざま」の事業に賛同し研修生の受け入れを行っています。今年は受け入れ依頼はありませんでした。
- ・「さがみはら国際交流ラウンジフェスティバル」に参加して、寄付品やフェアトレード品を販売しながらWE21相模原の活動をアピールしました。
- ・イオンの「幸せの黄色いレシートキャンペーン」の参加団体として登録しました。
- ・明治安田生命の社会貢献活動に協力し、ペットボトルキャップを収集しました。
- ・ユニットで連携する家事介護W.Coの紹介で、寄付品の提供の紹介が増えてきました。